

2021年1月24日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「イエスの怒り、悲しみ」

聖書：マルコによる福音書3：1～6

イエスの怒り、悲しみはどこにあるのか？イエスは会堂に入られると「そこに手の萎えた人がいた」。イエスはその手の萎えた人にどう向き合うのか、見ている人たちがいた。安息日に治療は違法である。しかしイエスは癒しの業を行う。

そもそも、この手の萎えた人はどうしてこの会堂にいたのか。自らの意思で、イエスの癒しを求めて来たのか。実はそうではなさそうである。誰かに連れて来られた。意図的に。では誰に連れて来られたのか？この箇所文脈からして2節の「人々はイエスを訴えようと思って、安息日にこの人の病気を癒されるかどうか注目していた」とある。ここでは明らかにイエスを訴える口実を作るための罠であった。その罠のための道具としてこの手の萎えた人が連れて来られたようである。普段は病気で動けない人を会堂に連れてこようなんて微塵も思わない連中。むしろ律法をちゃんと守らないからその罪の証しとして病気になったんだと言い張るそのような学者らが、イエスを訴える口実を作るための道具としてこの病人を利用した。イエスはそのことに怒りを発し、あえて挑戦的に命を張ってでもこの状況と闘おうとされたのではないか。

イエスはこの人を会堂の「真ん中に立ちなさい」と言う。何故か？真ん中は、注目が集まる場所。私たちの意識が常に集まる場所。その「真ん中に」イエスは手の萎えた人を立たせた。人間としての尊厳を軽んぜられたその人を「真ん中に」招いたのである。それは、常に私たちが、そのような小さくされた者への思いを忘れず、大切にしなさいというメッセージではないか。そのような方が隅に追いやられてはいないか？私たちの地域社会はどうか？この国はどうか？

先週、沖縄いのちの電話の代表の方のお話を聞く機会があった。2020年の自殺者数は11年ぶりに増加している。特に女性の自殺者が増えている。その理由は、このコロナ禍の影響を受け、仕事を失う率が女性がかかりの数が多い。派遣であったり、パート職であったり。すなわち、非正規雇用者からどんどん首を切られ、職を失う。弱い者から仕事が無くなり、ホームレスになる女性も増えている。生活苦から命を絶つということが増えている。「イエスの怒り、悲しみ」は、小さくされた者を軽んじる状況に、片隅に追いやる社会に発しておられる。

私たちは、この「イエスの怒り、悲しみ」の中に何を見るものか？(神谷)